

## ◆医師の異動（10月）

■退職（H29.9.30付） 眼科（嘱託医） 西村 初夏

## ◆地域医療従事者研修のご案内

### ■第292回 開放型病床生涯教育研修会

日時：平成29年11月2日（木）17:30～19:00  
 会場：市立長浜病院 講堂  
 テーマ：地域包括ケアシステム～介護福祉士の役割～  
 講師：藤田保健衛生大学七栗記念病院  
 介護福祉士 船橋 亮平先生  
 問合せ：地域医療連携室 電話 0749-68-2300（代表）

### ■滋賀県緩和ケア研修会（PEACE）

平成29年度滋賀県緩和ケア研修会を開催します。  
 がん対策推進基本計画では、「がん診療に携わるすべての医療従事者が基本的な緩和ケアを理解し、知識と技術を習得すること」を目標に掲げており、受講終了者（医師）には厚生労働省健康局長名による修了証書が交付されます。

長浜で受講できる貴重な機会です。がん診療に携わる先生方に一人でも多く受講していただき、日常の診療にお役立ていただけたらと考えております。

日時：A研修 平成29年11月11日（土）  
 B研修 平成29年11月12日（日）

会場：市立長浜病院 講堂  
 募集期間：10月2日（月）～10月20日（金）  
 申込先：がん対策推進室 電話 0749-68-2300（代表）

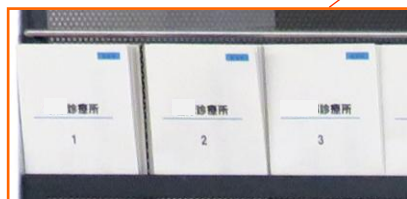
※詳しくは、滋賀県がん診療連携協議会のホームページをご覧ください。

## ◆かかりつけ医紹介チラシを設置しました

湖北4病院地域連携担当者会にて湖北圏域の医科の開業医さんの紹介チラシをまとめさせていただきました。

湖北医師会の先生方にはご協力いただきありがとうございました。

市立長浜病院では正面玄関ホール付近にチラシを設置させていただきます。



## ◆診療予約状況について

### 歯科・歯科口腔外科

2週間待ちの状況

### 睡眠時無呼吸症候群外来

12月中旬以降の予約待ちの状況



大変ご迷惑をおかけいたします。  
 その他の診療科につきましては比較的空き枠もありますので、地域医療連携室にご相談ください。ご予約お待ちしております。

## ◆放射線科 診療依頼書の一部変更について

放射線診断用 診療依頼書の内容を10月より一部変更をさせていただきます。

次回送付分より新しい書式の依頼書を送付させていただきます。

また、ホームページへの掲載を予定しておりますので、ご活用ください。



## 編集後記

暑さ寒さも彼岸までといわれるように、急激に気温の変化を感じます。秋を楽しみたいのですが今年も我が家の周辺に出没する動物との収穫合戦に格闘する日々です。



Pink-Bu

救急告示病院  
 日本医療機能評価機構認定病院  
 地域がん診療連携拠点病院  
 厚生労働省臨床研修指定病院  
 周産期協力病院

# 市立長浜病院 地域医療連携だより

理念  
 地域住民の健康を守るため、「人中心の医療」を  
 発展させ、地域完結型の医療を進めます。

平成29年10月1日号 No.154

市立長浜病院ホームページ  
<http://www.nagahama-hp.jp/>  
 市立長浜病院 検索



市立長浜病院患者総合支援センター 地域医療連携室  
 〒526-8580 長浜市大成亥町 313 番地  
 TEL:0749-65-2720 FAX:0749-65-2730

謹啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は当院病院事業に格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。10月の外来診察担当医師表を別添資料でお届けいたしますので、ご査収ください。 敬白

## ◆褥瘡対策チームについて

形成外科責任部長 藤林 久輝



高齢化社会を迎え、かつて看護の恥と言われ、経験と勤によって管理されてきた褥瘡が、それを有することにより社会復帰を妨げるのみならず、栄養状態の低下や感染症の危険性を増加させ国民の健康を大きく害することからわが国の医療政策上、きわめて重要な問題となったことから、1998年に厚生省でエキスパートオピニオンを中心とした「褥瘡の予防・治療ガイドライン」が公表され、今まで注目されなかった褥瘡への関心が高まり始めました。

またこの年に日本褥瘡学会の設立もあり、褥瘡の病態から予防・治療に至るまでを科学的に解明しようとする気運が起こり、日本褥瘡学会が医師のみでなく、褥瘡診療にかかわるすべての医療者（看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士など）を広く呼び集め、他職種の特長を尊重しお互いに学びながら、褥瘡診療を高めようという方針を取ったことで、チーム医療の推進と褥瘡の予防から治療までのトータルマネジメントの視点が育まれてきました。

2002年10月からは「褥瘡対策未実施減算」施策が施行され、急性期病院の周手術期における褥瘡発生に関連しての褥瘡ハイリスク患者ケア加算が2006年に開始されました。厚生労働省の褥瘡対策未実施減算施策では「リスク評価に基づく診療計画書」が提示され、基本的動作能力、病的骨突出、関節拘縮、栄養状態低下、皮膚湿潤（多汗、尿、便秘）、浮腫（局所以外の部位）の6項目について簡便に評価することが求められました。実際の褥瘡診療に当たっては、褥瘡の発症要因を徹底的に除去することがきわめて重要であり、これを怠るとたとえ適切な局所治療が行われても、褥瘡の改善は望めません。

褥瘡対策未実施減算対策施行後は、当院でも褥瘡に対して多職種が総合的に参加する褥瘡対策チームを2004年に結成し院内の褥瘡に対しチームでの回診を継続しています。そして専任、専従の皮膚・排泄ケア認定看護師のWOCナースを中心に、看護師、薬剤師が医師とともに褥瘡管理の協同作業を行っています。このように職種を越えて、1つの疾患治療を共同で行うことがチーム医療を活性化させるのみならず、院内の褥瘡に対する関心と理解さらには知識が普及することを目標に褥瘡対策チームは活動しています。



## ◆褥瘡対策チームにおけるWOCナースの役割

皮膚・排泄ケア認定看護師 西尾 多恵

褥瘡対策チームは、形成外科医師、皮膚科医師、皮膚・排泄ケア認定看護師、各病棟の褥瘡対策専任看護師で構成され、院内での褥瘡対策を検討・立案し、その効率的な推進をはかることを目的として活動しています。月2回の褥瘡回診では薬剤師も参加して褥瘡治療に向け、医師による処置、看護師によるケア方法の見直し、薬剤師による適切な薬剤の提案といった多職種がそれぞれの専門性を発揮しながら褥瘡治療に向けた取り組みを行っています。また看護師・介護士対象の研修を企画し、褥瘡予防ケアの知識、技術の向上もはかっています。

近年在宅で発生した褥瘡、いわゆる持ち込み褥瘡の患者さんが多くなっています。持ち込み褥瘡の場合は、その深達度が深い、また複数同時に発生している患者さんが多く、入院期間で治療することは難しく退院後も褥瘡ケアを継続する必要があります。退院前には、本人やご家族をはじめ主治医、病棟看護師、地域の多職種とともに皮膚・排泄ケア認定看護師が参加して在宅での褥瘡ケアについてカンファレンスを行っています。2012年の診療報酬改定で、在宅で褥瘡を有する療養者に対して実施する専門性の高い看護師と訪問看護師による同1日訪問が診療報酬に反映されました。

当院でも皮膚・排泄ケア認定看護師が同行訪問を行っています。実際にご自宅へ訪問して居住生活を知り、在宅で継続できる褥瘡ケアを提案しています。お困りのことがありましたらご相談ください。



褥瘡回診の様子



院内研修



## ◆10月20日(疼痛ゼロ)の日について

長浜病院訪問看護ステーション がん性疼痛看護認定看護師 河野 智一

私は訪問看護ステーションスタッフ・院内緩和ケアチームの一員として、痛みを抱くがん患者さんやご家族の日常生活を支えるケアを行っています。10月20日は「トーツーゼロ」の語呂にちなんで、皆さんとがんの痛みについて共有させていただく機会をいただいております。

がんの痛みは薬を使うことにより80~90%まで和らげることができます。お近くに「痛みを我慢されている」「痛み止めはこわい」と思っておられる患者さんはおられませんか?痛みがあると、「眠れない」「やりたいことができない」「気分が晴れない」など生活にも影響を及ぼします。痛みはご本人に教えていただかないと、正確には分かりづらいものです。是非、患者さんや医療者間で痛みについて話し合う機会を増やしてみたいはいかがでしょうか。痛みを知ることで、効果的なお薬の使い方を考えることができます。がんリハビリテーションや療養環境の工夫、アロマセラピーで痛みが和らぐこともあります。

また、痛み止めは正しく使うことで安全に痛みを和らげることができます。患者さんが痛み止めについて誤って理解されていることが「痛み止めはこわい」という思いにつながり、適切にお薬が飲まれない原因になっているかもしれません。

当院に併設されている訪問看護ステーションでは、がんの痛みでお困りの方の身体的、精神的、社会的、スピリチュアルなつらさに耳を傾け、適切な症状緩和が提供できるように施設を超えて、多職種と協働できるように努めております。ご自宅まで最期まで過ごすことにお悩みの方がおられましたら、訪問看護の利用をご検討いただければ幸いです。



## ◆職員対象のロービジョン展示体験会を開催しました

近年の高齢化に伴い、眼疾患の有病率も高くなり、視力や視野の異常で不自由を生じる「ロービジョン(Low vision)」の状態の方が増えつつあります。当院の眼科では平成20年よりロービジョン外来を開設し、このような患者さんの見え方を助ける補助具の選定や生活の工夫について提案を行っております。

しかしながら、ロービジョンの方は眼科だけでなく、他の診療科も受診されます。このため、眼科スタッフ以外の職員にも、ロービジョンの見え方の体験を通して環境に必要な配慮や安全な誘導方法について

認知を広めるべく、9月11日に「ロービジョン展示体験会」を開催いたしました。この展示体験会では、白内障などの様々なタイプのロービジョン状態で拡大鏡などの視覚補助具を試すほか、色覚異常の体験レンズで色の見え方を比較したり、斜視で物が二重に見える「複視」の状態になるメガネで段差の怖さを体験する企画も取り入れています。今回で3回目の開催となりますが、これをきっかけに7月より病院食でロービジョンの方にも見やすい色付きの自助食器の導入も実現し、眼科入院の患者さんからも高評価をいただいております。この啓発活動を通して、患者さんの療養環境の整備がさらに進むよう、今後も定期的に開催を予定しております。



ロービジョン展示体験会の様子



目の愛護デー展示パネル

### 10月10日は「目の愛護デー」

昨年度より「目の愛護デー」のパネル展示を行っています。今年度も10月2日(月)~13日(金)まで、1階総合受付横に展示予定です。白内障や糖尿病網膜症、緑内障などの眼疾患の解説のほか、小児の斜視や弱視、そしてロービジョンについても情報提供を行いますので、ご来院の際には是非お立ち寄りください。

## ◆第290回 開放型病床生涯教育研修会を開催しました

9月7日に当院講堂において、第290回 開放型病床生涯教育研修会を開催しました。講師は、当院呼吸器内科責任部長の野口哲男先生で「慢性呼吸器疾患~吸入療法について」と題しご講演いただき、院内外から70人の参加がありました。

講演の内容としては、COPDの定義や診断基準などCOPD診療の概要から始まり、薬物治療や吸入指導、医薬連携の重要性、長浜市や滋賀県における吸入指導に対する活動について講演をしていただきました。

講演の途中には、正しい使用方法について、実際の吸入薬を使用しながら説明してくださる場面もあり、とてもわかりやすい有意義な研修会となりました。

講演後に寄せられた感想を一部紹介します。(アンケートより)

- ◇ 説明がわかりやすく、興味深く聞くことができた。
- ◇ 薬剤指導もわかりやすかった。
- ◇ 実践できる内容で良かった。
- ◇ 吸入薬の種類の違いがよくわかった。
- ◇ 吸入の手順についてカメラを用いてスクリーンに写して説明されていたので大変見やすく、理解しやすくて良かった。

### 吸入薬の効果は吸入指導で決まる!!

